



の中山間地域に分けられている。この2箇所の中山間地域およびその周辺は傾斜地が多く、水源のかん養、良好な景観形成等の多面的機能を有しているが、担い手の高齢化や農家戸数の減少、離村等により著しい機能低下が懸念されている。

平野を囲んで海手、山手に集落が集散している。東方は宝達丘陵の一つである碁石ヶ峰（461m）を仰ぎ富山県氷見市に接している。西方は日本海に臨み、海岸線は延長8kmのなぎさドライブウェイがある。北方はおもに眉丈山系を境として、羽咋郡志賀町、鹿島郡鹿島・鹿西両町に接している。南方は羽咋郡志雄町と隣接している。市域は東西南北にほぼ9km四方、行政区域総面積は81.96Km²あり石川県の1.96%を占めている。地目別面積では田29%、山林18%、宅地8%、畑5%、雑種地2%、原野1%、その他37%となっている。

気候は、日本海型気候に属し降雪を伴う冬季及び年間降水量が多いが、積雪量は北陸地方の各都市と比較して少なく、年間平均気温は14℃、年間降水量は2,195mmと比較的温暖な地域である。

(産業構造・人口および農家世帯数の推移)

羽咋市の産業構造は、第三次産業が多くを占めており、第一次産業は7.6%と低くなっている。

農業従事者は凡そ3,000人で、82%が恒常的勤務に就いており、日雇い等に8%前後流出している。

また、昭和40年には29,090人あった市の総人口が平

成12年には25,541人と減少の一途を辿っている。とりわけ農家戸数は昭和60年度に2,250戸あった農家数は、平成12年度には、1,222戸と半減しており、特に中山間地域(神子原・千石・菅池・宇土野・白瀬・一ノ宮・滝谷)とその周辺地区では農家戸数の著しい減少と、いわゆる「空き農家」とともに付随し管理者がいなくなった「空き農地」が目立ってきている。

羽咋市の代表的な、中山間地域では高齢化・離村率は高く、とりわけ地区と言われる・・・町は農家の高齢化と集落世帯数の減少により、集落機能も失われつつある状況で「農村崩壊」の危機にある。

この地区の耕作放棄地は、平成12年末で31ha、平成16年度末では45haとなっており、今後ますます増加する傾向にある。市全域では平成16年度末では、およそ185haの耕作放棄農地を抱えている。

(農業従事者の他産業就業状況)

単位：人

	他産業就業者		
	男	女	計
恒常的勤務	1,587	1,169	2,756
出稼ぎ	2	1	3
日雇い・臨時雇	147	99	246
自営兼業	226	157	383
総計	1,962	1,426	3,388

資料：H12 農業センサス

(中山間地域の集落世帯数減少と高齢化・離村)

羽咋市において空き農家が集中している中山間地域の地区では、昭和59年度には196世帯・人口832人あったが、平成16年8月末時点では、168世帯・人口525人へと下降し、およそ10年余りで人口は47%にまで減ってきた。

この集落人口の減少は、農業の取組みはもとより集落としての共同取組みである農業用水の水路確保、急斜面の法面の草刈など多面的機能の維持にも支障をきたすようになってきている。さらに町としての町会機能も、高齢化し若い世代がいらないという理由から集落のとりまとめ事務作業や各世帯への連絡、そして年中行事の祭礼も成り立たなくなっている。

神子原地区で最も高齢化が進む菅池町の高齢化率は平成17年度で48%あり、農業者の平均年齢が75歳となっていており、公共事業や国・県の補助事業を入れても